

## 2003年春季における山陰若狭沖冷水の接岸とブリ大型魚の漁況

熊木 豊・久田 哲二（京都府立海洋センター）

### 【はじめに】

ブリ *Seriola quinqueradiata* は若狭湾およびその周辺海域における主要な漁獲対象魚種の一つであり、当歳魚から成魚まで各成長段階のものが水産資源として利用されている。とりわけ、1尾あたりの魚体重が4~5kg以上になる2歳以上のブリ(以後、ブリ大型魚)は重要な漁獲対象であり、若狭湾およびその周辺海域では春季(4月~6月)と冬季(12月~翌年1月)が主漁期である。

2003年春季には若狭湾およびその周辺海域でブリ大型魚が豊漁となり、近年では最高となる約640トンの漁獲量(4~6月合計)を記録した。そこで、当該年春季の豊漁要因について検討したところ、山陰若狭沖冷水の挙動との関連が示唆されたので報告する。

### 【材料と方法】

京都府漁業協同組合連合会と福井県水産試験場の集計による1985年から2003年までのブリの銘柄別月別定置網漁獲量のうち、各年の4月から6月までの銘柄区分「ぶり」と「まるご(わらさ)」の両府県合計漁獲量を若狭湾およびその周辺海域における春漁期のブリ大型魚漁獲量として取り扱った。

また、春季の若狭湾沖合海域における冷水域の離接岸の状況を判断するために、独立行政法人水産総合研究センター日本海区水産研究所が2003年10月に発行した平成15年度第2回日本海海況予報より、1985年~2003年の6月における山陰若狭沖冷水域の勢力を表す指標値を参照した。この指標値とは、6月の若狭沖水深100mにおける11℃等温線を山陰若狭沖冷水のフロントとみなし、そのフロントと沿岸の4地点(兵庫県余部崎、京都府経ヶ岬、福井県越前岬、石川県金沢)との最短距離を平均したものである。

### 【結果と考察】

1985年~2003年の春漁期におけるブリ大型魚漁獲量と山陰若狭沖冷水の接岸距離に関する散布図をFig.1に示した。2003年春漁期には、近年で最も多い約640トンの漁獲量を記録した。一方、同年6月における山陰若狭沖冷水の接岸距離をみると、期間中に最も接岸していた1988年6月の31kmに次ぐ、33kmであった。山陰若狭沖冷水が接岸傾向で、ブリ大型魚の漁獲量が100トン未満であった1985年~1989年、山陰若狭沖冷水が離岸し、ブリ大型魚の漁獲量が約530トンであった1992年を除くと、おおそ山陰若狭沖冷水の接岸時には、若狭湾及びその周辺海域における春漁期のブリ大型魚漁獲量が多い傾向がみられた。

三谷(1960)は、1950年代における若狭湾およびその周辺海域の春季ブリ成魚漁獲量と山陰若狭沖冷水の挙動との関連に着目し、山陰若狭沖冷水が接岸かつ浮上することによって、暖流の流路を沿岸域に制限するような年には、ブリ成魚の豊漁が期待されることを示した。また、桑原・坂野(1980)は、1970年代における京都沿岸の春季ブリ成魚漁獲量と同府沖合高塩分水面積との間には負の相関関係が成立することを示した。桑原ら(1980)は、高塩分水面積の減少を対馬暖流系水の岸側への制限とみなし、対馬暖流勢力そのものよりも対馬暖流系水の岸への制限がブリ大型魚の豊漁にとって重要であると考えた。対馬暖流系水の岸側への制限は、山陰若狭沖冷水の勢力が強くて接岸した時に付随して発生することが想定されるため、実質的には三谷(1960)と同様の視点でブリ成魚豊漁の条件を述べているものと思われる。したがって、2003年春季におけるブリ大型魚の豊漁要因の一つとして、過去の研究報告例と同様、山陰若狭沖冷水の顕著な接岸が関係していた可能性がある。ただし、

1985年～1989年には山陰若狭沖冷水域が接岸していたにもかかわらず、若狭湾およびその周辺海域におけるブリ大型魚の漁獲が少なかったことから、必ずしも山陰若狭沖冷水の接岸がブリ大型魚の豊漁のための十分条件とはなりえない。内山(1997)は、若狭湾以北、特に日本海中部～北部海域において1990年以降、当該海域における冬季海水温の上昇により日本海中部～北部海域越冬群の量的割合が増大したことを指摘した。内山の仮説に基づけば、1989年以前の春漁期には若狭湾およびその周辺海域へと来遊するブリ大型魚そのものが少なく、定置網への入網にとって好適な海況条件であったにもかかわらず、定置網による漁獲量の増加につながらなかったものと推察される。逆に、山陰若狭沖冷水が離岸傾向にあっても、若狭湾およびその周辺海域へブリ大型魚が多く来遊し、1992年春漁期のような豊漁となるケースも十分考えられる。以上のことから、山陰若狭沖冷水の挙動は、若狭湾およびその周辺海域における春漁期のブリ大型魚漁況を支配する条件ではないが、当該海域周辺へのブリ大型魚来遊量が水準以上かつ山陰若狭沖冷水の勢力が強い年には、2003年春漁期のような豊漁が期待できるであろう。

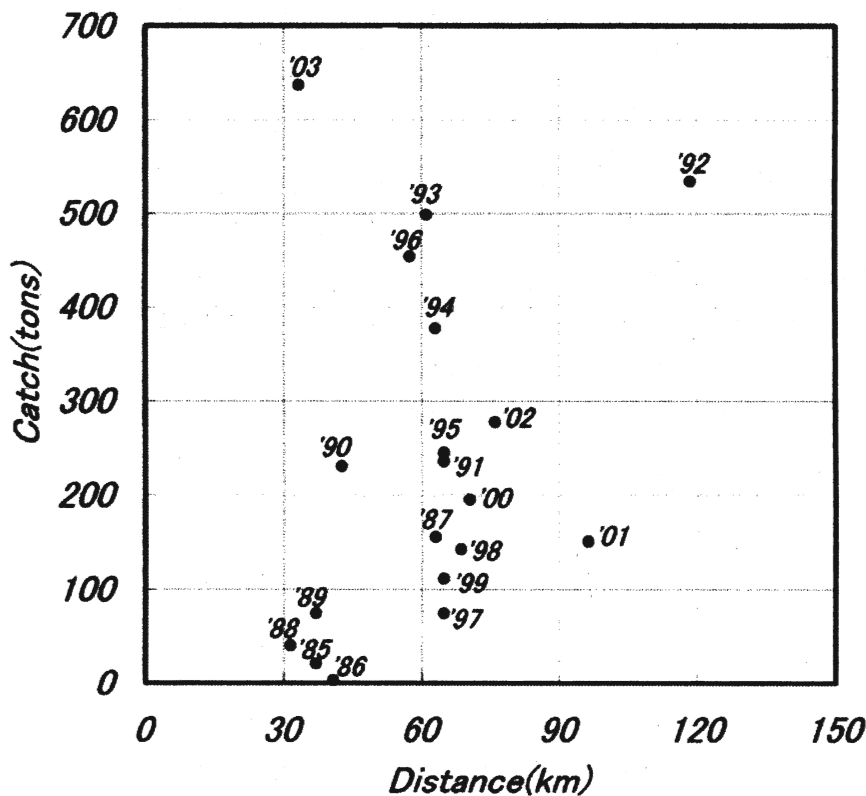


Fig.1 1985年～2003年の春季における若狭湾およびその周辺海域のブリ大型魚漁獲量(トン)と山陰若狭沖冷水接岸距離(km)との関係を示した散布図

【参考文献】

内山勇. 1997. 日本海のブリ資源. 水産海洋研究会報, 61(3): 310-312.  
 桑原昭彦・坂野安正. 1980. 京都府沖合域の漁海況と高塩分水について. 水産海洋研究会報, 36: 27-32.  
 三谷文夫. 1960. ブリの漁業生物学的研究. 近畿大学農学部紀要, 1: 81-300.